

小説家藤沢周平氏の記念館がOPENしました



鶴岡市立藤沢周平記念館

所在地／山形県鶴岡市

建築主／鶴岡市

敷地面積／1,718.95㎡

工事種別／新築

用途／文学館

主要構造／RC造、一部S造

最高高さ／10.65m

建築面積／716.16㎡

延べ面積／928.81㎡

竣工／平成21年5月

OPEN／平成22年4月

藤沢周平氏の業績を顕彰し、貴重な資料と描かれた作品世界を後世に伝え残すこと、「藤沢文学」の原点とも言える鶴岡の自然と歴史・文化への理解を深めることを目的に「鶴岡市立藤沢周平記念館」が設立されました。
(鶴岡市資料)

鶴岡城の本丸に位置する藤沢周平記念館は、隣接する大正建築・大宝館や明治の名工高橋兼吉作の荘内神社などへの配慮から四周に下屋状に低い屋根をめぐるせるとともに、松の大木をよけるために外壁をアルコーブ状に後退させたり、屋根を斜めに切りこんだりしました。内部は高い吹き抜けをもつ細長いギャラリーと天井を低く抑えたロビーがL型の骨格を成しているが、それぞれ大宝館と城の土塁が正面に見えるように配置しました。これは道路の正面に山を配した城下町の町割の方法を参照しました。また、建物全体が地域の伝統的工法である鞘堂方式を取っています。このように周辺環境や地域の伝統・文化との関係性の中で外観や空間構成を決定することで、記念館は藤沢周平氏の故郷に脈々と流れる時間や文化的伝統の系譜上に確かな存在感を獲得できると考えました。



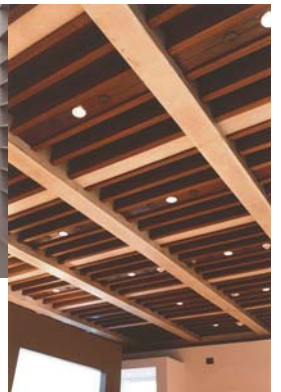
旧宅の屋根瓦を再利用した坪庭



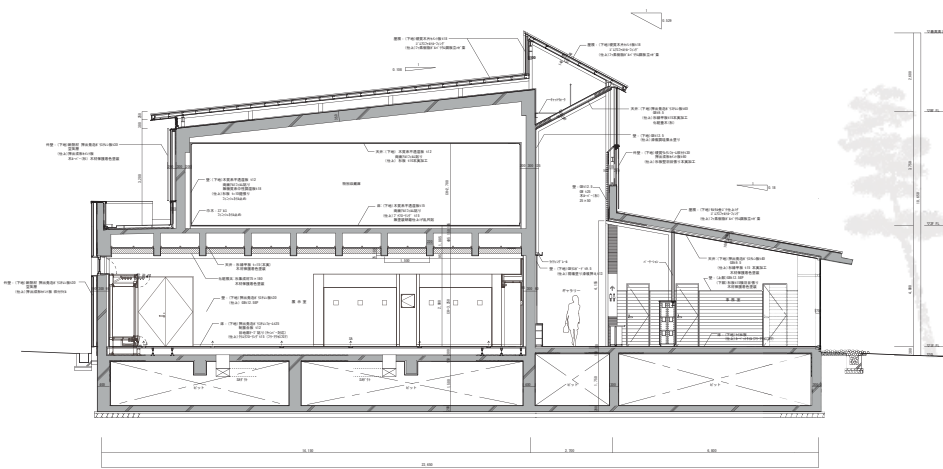
エントランスホールよりロビーを見る



旧図書館のオマージュであるサロン



展示室の地場産杉根太天井



地域の伝統工法・文化に学び、RC造の堅固な「蔵」(展示室・収蔵庫)をS造の軽やかな「鞘」(事務室、ギャラリーなど)が取り囲む現代的な鞘堂を提案しました。

伝統的な地域・風土の知恵を取り入れることで、資料保管に必要な安定した室内環境と防火性能を満たすだけでなく時間とともに培われてきた空間的豊かさ、品格を現代に伝えることができると考えました。

2010.MAY

NEWS LETTER

HP <http://www15.ocn.ne.jp/~takatani/>

(株)設計・計画高谷時彦事務所